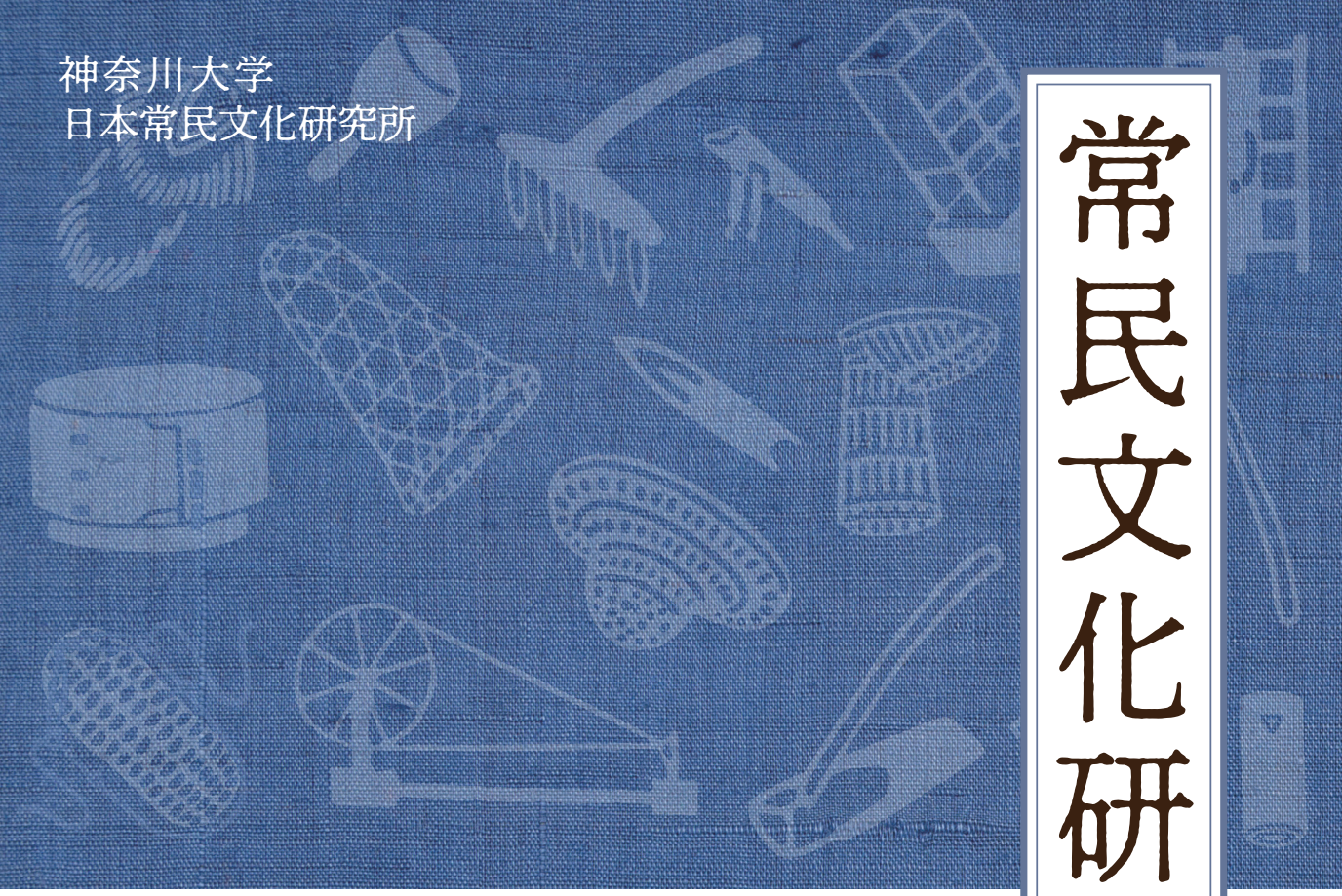

神奈川大学
日本常民文化研究所

常民文化研究

第3巻
第2号
2024

アチックのおもちゃ時代
——渋沢敬三の人間形成と学問——
……河岡　武春　1

【解題】
渋沢敬三の人間形成
——「精神化」から「生物学的人生観」へ——
……佐野　賢治　189

不即不離の存在
——渋沢敬三と河岡武春における考古学との道交——
……角南　聡一郎　197

The Formation of Keizo Shibusawa as a Person and His Academia :
The Attic Museum Toy Collection Period

KAWAOKA Takeharu

【Comment】

The Formation of Keizo Shibusawa as a Person :
From the concept of "Spiritualization" to a "Biological View of Life"

SANO Kenji

A Presence Neither Too Near Nor Too Far :
The relationships with archaeology of both Keizo Shibusawa and Takeharu Kawaoka

SUNAMI Soichiro

Jomin Bunka Kenkyu: Bulletin of Institute for the Study of Japanese Folk Culture

Volume 3 (2), 2024

Institute for the Study of Japanese Folk Culture,
Kanagawa University
3-27-1 Rokkakubashi, Kanagawa-ku, Yokohama,
Kanagawa 221-8686 JAPAN
Email: jomin-office@kanagawa-u.ac.jp
Tel: +81-(0)45-481-5661

ISSN2758-5026

常民文化研究　第三巻　第二号（二〇二四）

アチックのおもちゃ時代

――渋沢敬三の人間形成と学問――

河岡　武春

「アチックのおもちゃ時代」は『民具マンスリー』第9巻11号〜第14巻10号（1977〜1982年）に連載されたものである。なお、本誌への再掲載にあたって、明らかな誤植等は、適宜修正を加えた。

◉執筆者（掲載順）
河岡　武春〈元所員・財団法人日本常民文化研究所元常務理事〉
佐野　賢治〈元所長・特別研究員〉
角南　聡一郎〈所員〉

◉編集委員
大川　啓　　姜　明采　　泉水　英計（編集長）
安室　知　　吉澤　達也

◉編集後記

河岡武春氏の渋沢敬三論連載を一冊にまとめ、通読できるようにすることは、本号に解題を寄せた佐野元所長の強い希望であった。業務を引き継いだ角南所員からは、考古学との関連について、別途解説を寄せていただいた。1974 年、アチック・ミューゼアムの 50 周年に「民具研究講座」が開始されている。民具の重要性を社会が認識しはじめた時代であった。事業計画書は、これを見越して収集と調査研究を進めた渋沢の達見を鑑みて「渋沢敬三記念」を冠し、本講座の拡大・継続を訴えている。1977 年に連載が開始される河岡氏の敬三論も、そのような流れのなかにあったと想像する。掲載誌の『民具マンスリー』は、所蔵している大学図書館は一定数あるものの、揃いで所蔵している館は極めて少ないようだ。それが、たんなる学会誌ではなく、民具研究の同志たちのフォーラムとして機能していたためかもしれない。アチック・ミューゼアムの 100 周年記念事業の本誌『常民文化研究』での一括再録が、同志たちの助けになれば幸いである。

常民文化研究　第 3 巻 第 2 号（2024）

発行　2025 年 3 月 31 日
編集・発行　神奈川大学日本常民文化研究所
〒 221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
電話　045(481)5661（代表）
http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/

制作　株式会社 BE-million
印刷　株式会社 精興社
装幀　橘川幹子
ISSN2758-5026

＊著作権者の文書による許諾がないかぎり、法律が認める場合を除き、本書の全部もしくは一部を複製すること、あるいは送信公開することを禁じます。